日 進 北 小 だより

令和８年１０月１日　第６号

電話 048（663）1842　FAX 048（663）9884

https://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/

学校教育目標 心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、
行動できる子どもを育成する
～自分一　すてきなあいさつ　日北っ子～

児童の学校生活の様子を、
随時更新し掲載しています。
どうぞ、ご覧ください。

のび太君とひみつ道具　～生成AIの上手な活用法って？～

校　長　　寺越　崇征

年度の折り返しとなる10月になりました。「スポーツの秋」「食欲の秋」「芸術の秋」「読書の秋」。何事もじっくりと物事に取り組むのにちょうどよい季節だといわれています。子どもたちは、３週間後（10月24日（土））に予定している運動会に向けて、本格的に練習を始めました。毎年恒例の光景ではありますが、日々上達し、動きが洗練されていく子どもたちの姿がはっきりと分かる、楽しみな時期でもあります。けがに十分気を付けながら取り組めるよう支援してまいります。

さて、話は変わりますが、私は子どもの頃から漫画が大好きです。今は『ONE PIECE』（尾田栄一郎さん作）に夢中で、ほぼ日課のように毎日丸１巻分を読んでしまいます。その前は『SLAM DUNK』（井上雄彦さん作）、さらにその前は『DRAGON BALL』（鳥山明さん作）。『火の鳥』をはじめとする手塚治虫さんの作品に没頭していた時期もありました。ほかにも挙げ始めれば、この紙面ではとても収まりきらないほど多くの作品に触れ、それぞれの世界観に浸ってきました。

かつては「漫画ばかり読んでいると活字離れし、勉強ができなくなる」などと言われ、否定的に捉えられることもありました。しかし私にとって漫画は、人生を豊かにしてくれる大切なツールの一つです。一応言い訳をしておくと、勉強を全くしていなかったわけではありませんし、小説等の本も読んでいました。漫画は「読む」ことに加えて絵を「見る」ものとして、自分の中では区別しています。大切なのは、頭ごなしに禁止することではなく、上手に活用する力を身に付けることではないでしょうか。これは、今でいうSNSや動画視聴にも通じる考え方のように感じます。

一方、漫画は今や日本が世界に誇る文化の一つとなりました。その発展に大きな影響を与えた作品の一つが、『ドラえもん』（藤子・F・不二雄さん作）です。私も大好きな作品の一つです。長年テレビアニメとしても放映され、金曜の夜に流れてくる「あんなこといいな、できたらいいな」の主題歌を毎週楽しみにしていました。ご存じのとおり、主人公ののび太君が困りごとに直面すると、相棒ロボットのドラえもんがひみつ道具を出し、それを頼りに物語が展開していくのが定番です。のび太君が慎重かつ謙虚に自分の頭で考えながら、ドラえもんと協力し合って道具を活用している間は、困りごとは解決へと向かいます。（映画版のような感動的な長編作品に多いですね。）しかし、調子に乗って何も考えずに、ドラえもんの助言を無視して道具を乱用し始めると、道具に振り回されて困りごとはさらに大きくなり、結局は何も解決しないという意図しない結果を招きます。（のび太君自身だけが得をしようとする短編作品によく見られる展開です。）

つい最近、子どもの頃にドラえもんを見ていたときの感覚に近いものを覚えました。「一番の話し相手は対話型の生成AIです」「困ったら生成AIにすべて考えてもらいます」。そんな人が増えているという報道を見たときです。ひみつ道具がのび太君にとって困りごとの解決の手段であるように、生成AIは文字や図などを使って私たちに解決策を示してくれます。しかし、それをうのみにしてしまう危険性は、ひみつ道具の乱用と同じなのではないか、と感じます。漫画やアニメの世界であれば、主人公が失敗してもドタバタ劇で済みますが、現実の世界ではそうはいきません。

では、生成AIを上手に活用する力は、どのように身に付けていけばよいのでしょうか。正直なところ、私にもまだ答えは分かりません。今まさに学校全体で研究中です。生成AIは、大人であっても使い方を誤り、意図しない結果を招くことがあります。学校の学習において、生成AIを利用する場面は今後確実に増えていくでしょう。それは「大人が教え、子どもが教わる」だけの時間ではないはずです。ドラえもんとのび太君のように、大人も子どもも一緒になって試行錯誤しながら学んでいく。そんな時間を通して、生成AIに振り回されない、一人ひとり自分にとっての上手な活用法を見付け出していってほしいと願っています。私も子どもたちに置いていかれないように、時にはドラえもんのように、時にはのび太君のように、一緒に学び続けたいと思います。